広報やすぎ　平成２８年１０月号

四コママンガ

むかしエッサくんと行く 昔さんぽ

比田温泉の由来

２００年ほど前のこと、広瀬のまちから来た、湯田金十という人が東比田の川で砂鉄をとっていました。すると、近くで生暖かい水が出ている場所を見つけました。金十は「よい水にちがいない」と思い、顔なじみの広瀬藩の村役人に願い出て、温泉宿を開くことにしました。

宿を始めると、湯が病気に効くとたちまち評判になりました。ある日のこと、宿の許可をお願いした広瀬藩の村役人が若馬に乗って宿の見物にやってきました。金十は喜んで出迎え、宿を案内して回りました。温泉へ案内したときです。突然、役人の連れていた馬が暴れ出し、勢いよく風呂に飛び込んだのです。馬はしばらく風呂でもがきましたが、ついには力尽きてしまいました。

その日から不思議なことが起こりました。湯につかる人の傷や病気がみるみると癒えていくのです。人々はこの温泉で亡くなった馬のおかげだとうわさし、さらに人気になりました。馬が身を投げたのが土用の丑の日だったので、毎年、土用の丑の日にはお客が多くつめかけたため、近所の農家から風呂桶を借り出して間に合わせるほど繁盛したそうです。今でも比田の湯は、薬湯として多くの人でにぎわっています。

▶湯田山荘の大浴場

比田温泉（広瀬町東比田）

やすぎ再発見

東比田の閑静な自然の中で営まれてきた比田温泉は、江戸時代の開湯以来、湯治場としてその名を知られてきました。全国でも珍しい放射線を含むアルカリ性の単純泉は、皮膚病、切り傷、神経痛などに高い効能があります。その効能の評判は遠方まで聞こえ、入浴客が絶えることなく、最盛期には複数の湯治場が営業していたと伝えられています。

現在、比田温泉の宿を営業する湯田山荘は、薬湯として市内外から多くの客を集めるほか、地元住民の憩いの場にもなっており、夕方になると混雑し、館内ににぎやかな声が響いています。

●資源保護のため、この広報紙は再生紙を使用しています●
●広報紙にあなたの写真が載りましたら、差し上げますのでご連絡ください●
●自治会宛の発送等につきましては、市民参画課（TEL23-3067）までご連絡ください●

PRINTED WITH SOY INK
R70 古紙配合率70%再生紙を使用しています

秘書課編集／安来市役所
〒692-8686 安来市安来町878番地2 TEL23-3010／FAX23-3161
ホームページhttp://www.city.yasugi.shimane.jp/ メール hisho@city.yasugi.shimane.jp